



発行日：平成27年4月30日
 発行人：パートナー情報誌
 「香澄」編集委員会

編集委員：
 浅野明宏、尾形孝彦、新関紀文、
 廣原毅、有吉潔、上野夏実、
 戸井昌子、土肥奈津子、坂巻佳織



平成26年度 霞ヶ浦環境科学センターパートナー全体研修・交流会に参加して

平成 27年 2 月 7日(土)
 恒例のパートナー全体
 研修・交流会がセンター
 多目的ホールにて、パ
 ートナー及び環境保全



市民活動団体代表者の方々の参加で開催されました。今年は、パートナー体制見直しに伴いセンター主催で開催されましたが、多くの参加者で大変盛況でした。従来はパートナー対象の開催でしたが、今回は環境保全活動に関わる市民団体の皆さんの参加もあり会場の雰囲気に活気が感じられました。研修会は、講師に(公財)キープ協会環境教育部シニアアドバイザーの川嶋 直氏をお迎えし、「環境教育の考え方・参加型環境教育の事例紹介」について講演をして頂き、その後パートナーの自主活動報告として霞ヶ浦湖岸植物定点観察(有吉P)、霞ヶ浦クリーン Up 活動(尾形P)、全国水質一斉調査(浅野P)、魚類関係活動(新関Pの代行で尾形P)について、平成 26 年度の活動報告を行いました。講演では、山梨県の八ヶ岳山麓にある清里(230ha)で行われている環境教育事業(感性とサイエンスの視点で自然を見る目と社会に関わる)の事例紹介があり、特に五感を使って自然を感じる、感じたことを様々な方法で表現し、学んだことを分かち合い、ここから学べることを一般化するというもので、その方法が大変ユニークであると同時に川嶋氏の身振り、手振りを交えた講演に参加者の笑いが絶えない楽しい講演でした。紹介された事例は、今後の活動に大変参考になりました。また、市民活動団体の方々とも交流が図れたことや参加したパートナーの皆さんの講演に関する感想でも楽しく参考になったとの多くの声を聞くことが出来ました。パートナー同士の意見交換ができる時間があるととっても良かったと思います。

(パートナー 尾形)

もっと、もっと、湖岸を綺麗に

霞ヶ浦環境科学センターのボランティア活動として霞ヶ浦クリーンUpに参加しています。クリーンUp活動は、霞ヶ浦の沖宿と、川尻川河口までの2.3kmを、月1回、偶数月の第3日曜日と奇数月の第3金曜日に環境保全活動の一環で実施しているごみ拾い活動です。各回ともセンターに9時に集合し、11時を目安に清掃し、その後センターへ戻り、拾い上げたごみを分別、袋詰めをして終了です。参加者は、毎回4~5名程度で、26年度は多い時は7名もの参加がありました。回収するゴミ袋の量も、多い時は6袋もあり、その中でもペットボトル、空き缶、菓子袋の割合が多かったです。

なぜごみ拾いをするのか？ それは大好きな霞ヶ浦を綺麗に保全したいからです。誰でも身近な地域や家庭で、ごみが散らかっていたら不衛生で、見た目にもよくないし気持ちも落ち着かないものです。ごみ拾いをしていて、なぜごみを棄てるのか？ なぜ、湖岸までわざわざごみを運んで来て置いて行くのだろうか？ ごみを棄てる人は、家庭でも職場でもごみを散らかし片付けられないのだろうか？ と思いながら活動をしています。ごみを棄てる人は、分かっているのに棄てているのであれば、不幸な人だと心からそう思います。たかがごみ拾いと思っている人も世の中にはいるかもしれませんが、されどごみ拾い。私は、ごみ拾いを幸せだと感じてクリーンUp活動に参加しています。それは住んでいる身近な地域を大切に思う仲間と一緒に活動できる喜びがあるからです。そして幸せだと感じているから継続しています。

一緒に活動に参加しているボランティアの皆さんに感謝します。楽しくおしゃべりできる時間が作れているから…。これからもよろしくです。そして、今後この活動に、一人でも多くの仲間が参加されることを希望します。我々と楽しく、幸せなひと時を一緒に過ごしましょう！

(パートナー 廣原)



環境学習フェスタ

2月28日土曜日、県が実施する湖上体験スクールや出前講座などを通して、県内小学生による感想や成果を発表し、併せて各種催事などを行う「環境学習フェスタ」が開催されました。当日は天候に恵まれ、1,200名の方にご来場いただき、大盛況のイベントとなりました。メイン催事として行われました「環境学習発表会」では、県内小学校の皆さんが、プロジェクターや紙芝居など様々な工夫で発表をしていただき、来場した大人の方たちにも環境への関心が高まる契機となったことと思います。また、昨年度実施したパートナー制度の改正に伴い、パートナー表彰対象の見直しを行いまして、H26年度から積極的に参加いただいたセンターパートナー（今年度は、浅野P、有吉P、尾形P、小松P、目次P）の皆さんに感謝状の贈呈も行いました。センター内で展開した各体験ブースでは、オリジナルエコバッグやバスボム、エコキャンドル、アクリルたわしなど自分で作るエコグッズを多く出展し、家庭でできるエコ活動の普及を行いました。ご協力いただいたパートナーの方々にこの場を借りて感謝申し上げます。（センター 渋谷）



上段 尾形孝彦、目次隆、小松俊夫
下段 有吉潔、相崎守弘セ長、浅野明宏

平成27年度「霞ヶ浦湖岸植物同好会」活動の計画

植物同好会でのパートナー活動は、センター主催の「自然観察会(植物)」に於ける運営補助作業と、“パートナーの自主企画活動”として毎月実施する湖岸での「植物定点観察」の環境学習推進活動です。

自然観察会(植物)は霞ヶ浦流域内の植物観察を通して霞ヶ浦の水質浄化に関心を深めてもらう目的で、特定月の原則第3土曜日に実施されます。**定点観察活動**はセンター下の湖岸(下図)において、水質や気象の変動など環境の変化が植物相に及ぼす影響を見るため、毎月第2水曜日を定例日に絶滅危惧種や特定外来生物など継続調査を指定した植物は年間を通して、又花や実、冬芽など特徴のある植物についても適時に観察・記録し、その代表種の生態写真に説明を付けてセンター展示コーナーに掲示します。

(同好会代表 パートナー有吉)

【 地区(班)別定点観察活動の計画 】

[AB区] B区 悉皆調査は終了。カンエンガヤツリ(絶滅危惧Ⅱ類)、ジョウロウスケ(絶滅危惧Ⅱ類)。

A区: ドクセイリ(日本三大毒草)、サジモモダカ(県準)、ヨシ、マコモ(霞ヶ浦湖岸植物の代表種)他

[EFGH区] 第Ⅱ期自然再生事業の実施に併せて重点観察地区とする。

H区: ヤナギトラノオ(県 絶滅危惧Ⅱ類)、ミクリ(準)の動向を中心に毎月悉皆調査を行う。

EFG区: セイタカヨシ(県準)、ノウルシ(準)、ハンゲショウ 他

[KL区] オオフサモ(特定外来生物)、ノズキ(県準)、

アサマスケ(準、県絶滅危惧ⅠB類)、タンキリマメ(県絶滅危惧Ⅱ類)他

(注記 (準): 国指定 準絶滅危惧種、(県準): 茨城県指定 準絶滅危惧種)

定点観察位置図



9:30-10:30 AB-EFG 区観察 12:30-13:10 昼食
10:40-11:30 H区観察(全員参加) 13:10-13:40 H区評定
11:40-12:20 KL区観察(全員) 13:45-15:30 成果物作成



自然観察会に於ける
解説・記録活動



黄色の花が満開のヤナギトラノオ

自然観察会(植物)の年間予定

月-日	テーマ	場所
4-25	(2)常陸川水門付近の湿性植物。 (福田良市先生)	神栖市横瀬
5-23	(3)湿地や水田の植物生態 (農研機構・農工研 嶺田拓也氏)	霞ヶ浦自然再生事業地区 AB区再生地
6月	(第4回)	
10月	(第10回)	
11月	(第11回)穴塚の里山	

定点観察の年間予定

活動月-日	関連活動
4-8	
春 5-13	県環境アドバイザー (成島 明先生)
6-10	
夏 7-8	県環境アドバイザー
8-12	
9-9	
秋 10-14	県環境アドバイザー
11-11	
12-9	
冬 28-1-13	成島先生
2-10	
3-9	3/23 同好会、会議27年度総括、28年計画

平成27年2月27日 茨城大学農学部 霞ヶ浦研究会での発表より

河川環境学習の実践報告

霞ヶ浦環境科学センターでは、環境省が開発した水環境健全性指標を活用した河川環境学習を実践している。水環境健全性指標(水辺のすこやかさ指標)は、水量や岸などの河川の様子、動植物の生息状況、水質、河川と地域の人々のつながりなどの多角的な視点による水環境調査法である。水環境の総合指標研究委員会成果集(2013)によると、「これらの要素が改善され、健全に保たれてこそ、水環境が良くなったと実感できるものと考えられる。」とされている。桜川、恋瀬川、小野川、一ノ瀬川、そして涸沼川において、5つの小学校とセンターが連携して行っている。流域という概念を重視して基本的に上流、中流、下流の2~3カ所での環境調査を行っている。河川調査の普及の手立てとして、センター版「水辺のすこやかさ指標」の開発、「教職員研修」の実施、「外部講師」との連携、「出前講座」での支援、「コーディネート」を行っている。「センター版水辺のすこやかさ指標」は、小学4年生以上を対象として、県南地域の水質や護岸等の特性を考慮して作成している。「自然なすがた」「ゆたかないきもの」「水のきれいさ」「かいてきな水辺」、そして「地域とのつながり」の5つの視点で調査を行っている。夏休みに「教職員研修」を実施してあらかじめ教職員の皆様に「水辺のすこやかさ指標」を知ってもらうような機会を作っている。「地域とのつながり」の視点では、近隣の環境学習施設や環境アドバイザー、地域の方と連携して行っている。「出前講座」での支援では、センターからの講師の派遣、センターバスの利用によって河川環境学習が実施できる。「コーディネート」では、センター、学校、外部講師の日程や役割を調整している。環境学習の効果としては、川や動植物に対する親しみや関心が高まり、川や動植物を大切にしたいという態度を養うことができた。



環境教育(Environmental Education:EE)から持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development:ESD)へ

富田 個人としての発表

1972年の国連人間環境会議では、「環境教育は、個人、企業及び地域社会が環境を保護向上するような考え方を啓発し、責任ある行動をとるための基盤として必須のものである。」とされた。1975年のベオグラード会議では、環境教育の目標を「環境とそれに関連する諸問題に気づき、関心を持つとともに、現在の問題解決と新しい問題の未然防止に向けて、個人及び集団で活動するための知識、技能、態度、意欲、実行力を身につけた人々を世界中で育成すること」とした。1980年には「世界環境保全戦略(WCS)」に「持続可能な開発(Sustainable Development)」という概念が登場した。1987年には持続可能な開発とは、「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」とするブルントラント委員会最終報告書が作成された。1992年には環境と開発に関する国連会議・地球サミットが開かれ、リオ宣言とアジェンダ21が採択された。1997年の環境と社会に関する国際会議では、「持続可能性という概念は、環境だけでなく、貧困、人口、健康、食料の確保、民主主義、人権、平和をも包含するものであり、最終的には道徳的倫理的規範であり、そこには尊重すべき文化的多様性や伝統的知識が内在している。」とされた。2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議では、持続可能な開発のための教育が提唱され、第57回国連総会において小泉首相(当時)の提案に基づき、持続可能な開発のための教育の10年(DESDE/2005~2014年)が決議された。2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された国際会議やサミットで採択された目標を統合したミレニアム開発目標(MDGs)がまとめられた。教育の役割も記載された国連持続可能な開発目標(SDGs)の策定中であり、2015年9月に首脳会議・国連総会決議がなされる見通しである。



た人々を世界中で育成すること」とした。1980年には「世界環境保全戦略(WCS)」に「持続可能な開発(Sustainable Development)」という概念が登場した。1987年には持続可能な開発とは、「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」とするブルントラント委員会最終報告書が作成された。1992年には環境と開発に関する国連会議・地球サミットが開かれ、リオ宣言とアジェンダ21が採択された。1997年の環境と社会に関する国際会議では、「持続可能性という概念は、環境だけでなく、貧困、人口、健康、食料の確保、民主主義、人権、平和をも包含するものであり、最終的には道徳的倫理的規範であり、そこには尊重すべき文化的多様性や伝統的知識が内在している。」とされた。2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議では、持続可能な開発のための教育が提唱され、第57回国連総会において小泉首相(当時)の提案に基づき、持続可能な開発のための教育の10年(DESDE/2005~2014年)が決議された。2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された国際会議やサミットで採択された目標を統合したミレニアム開発目標(MDGs)がまとめられた。教育の役割も記載された国連持続可能な開発目標(SDGs)の策定中であり、2015年9月に首脳会議・国連総会決議がなされる見通しである。

MDGs(2001~2015)	国連持続可能な開発目標(SDGs) 現在進行中
<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困の終了 2. 飢餓の終了、食料安全保障、栄養改善、持続可能な農業の推進 3. 健康的な生活の推進と福利の向上 4. 教育と生涯学習 4.7. 持続可能なライフスタイルやESDを通じて、SDの推進に必要な知識の習得を推進する 5. ジェンダーと平等と女性のエンパワーメント 6. 水と衛生 7. エネルギー 8. 持続可能な経済成長、雇用 9. 柔軟なインフラ、持続可能な産業と革新 10. 国家内、国家間の不平等の解消 11. 安全で柔軟かつ持続可能な年と住居地学習 11.4. 世界遺産と自然遺産を守る努力を強化する 12. 持続可能な生産と消費 13. 気候変動とその影響への緊急的行動 13.1 自然災害と危機対応 14. SDのための海洋資源、海洋と海の保全 15. 陸域生態系の持続可能な利用の促進、持続可能な森林の管理、砂漠化・土地の劣化・生物多様性損失の阻止 16. SDのための平和的で包摂的な社会の促進し、すべての司法へのアクセスを提供するために、すべてのレベルでの効果的な責任のある包括的な制度の構築 17. SDのための実行手段の強化とグローバルパートナーシップの構築 	
<p>2015年9月 首脳会議・国連総会決議</p>	

(センター 富田)

「私の細道」(その13) 高久(たかく)



芭蕉と曾良は黒羽滞在の後、白河の関越えの前に、那須湯本に立ち寄るべく北上する。黒羽藩城代家老浄法寺高勝(図書(ずしょ))は芭蕉らに従者を付け、途中まで馬をも付けて見送った。曾良の随行日記には、元禄2年(1689年)4月16日に出立後の那須湯本への途中、「高久」の地に泊したとの記載がある。現在でいえば、東北本線の黒磯駅と高久駅の間辺りに位置する。芭蕉らの行程としては、黒羽(余瀬(よぜ))→野間→高久であり、野間で馬を返している。平成26年10月29日、私は芭蕉らの通ったであろう道を探した。野間から高久までの行程は、鍋掛宿から那珂川を渡り、北上して高久に至るとする説と、西側の道を黒磯経由で行く説が推定されているようであるが、私は後者を選んだ。芭蕉らは家老図書の手配によって、庄屋高久覚左衛門宅に宿泊した。雨の為もあり2泊している。なお、曾良は随行日記に、覚左衛門を「角左衛門」と誤って記載しており、高久を経て湯本まで同行した図書の家来の名も角左衛門(19日に湯本から黒羽に戻っている。)である為、両者が混同されるようなややこしい場面がこの章段には含まれている。高久には芭蕉と曾良が覚左衛門に贈った句が残されており、そこここに句碑として史跡となっている。

落くるやたかくの宿の郭公 芭蕉 木の間のをぞく短夜の雨 曾良

黒羽の新井敦史学芸員によると、郭公は当時、カッコウではなくホトトギスとして詠まれていたとのこと。高みからホトトギスの高い声が落ちるといふ表現が高久(たかく)の音に良く合っている。私はまず高久神社を配した聖蹟愛宕山(あたごやま)公園でこの句碑を見た。曾良の「俳諧書留」には、この句に前書きとして、「みちのく一見の桑門(そうもん)、同行二人～急侍るほどに～此処にとどまり候」の記載があり、謡曲の調子を採用している。「おくのほそ道」では随所に謡曲のリズムが採用されているが、この後、「殺生石」「遊行柳(ゆぎょうやなぎ)」などの謡曲舞台が続くことを意識しての採用であろう。次に、高久覚左衛門の墓があるという高福寺を探した。国道4号東側添いと案内書に基づいて探したが分からずうろろしていると、国道付近で草刈り機を廻している人を見付けた。道を問うたところ、作業の手を止め、訥々ではあるが寺までの道を丁寧に教えて下さった。話を聞きながら、まさに芭蕉らが「なすの」の章段で出会った「草刈る男」とはこのような人ではないかと一人合点した。国道4号と思っていたのはバイパスで、案内書は旧4号の黒磯高久線であった。高野山地蔵院高福寺。真言宗の名刹であり、高久家の菩提寺である。高久家の墓に「高久覚左衛門信近」の刻がある。高福寺境内には芭蕉と曾良の句碑があるが、曾良の脇句は「木の間のをぞく」が「一と間をしのぐ」となっている。旧4号を北上300m程の右側に高久家があり、その近辺に「芭蕉翁塚」の標識がある。「杜鵑(ほととぎす)の墓」とも記され、那須町教育委員会の説明板には覚左衛門の孫が建てたとある。しばらくその辺りに佇んでいると、散策している一人の老人と出会った。声を掛けると、元学校の教師で、昔、生徒らと近隣の「おくのほそ道」ゆかりの場所を歩いたと言う。退職後、一人、車で東北から日本海側まで芭蕉行の跡を追ったとも言う。私が深川から始めたここまでの経過を説明すると、この試みを激励して下さい。同好の友を得た気持ちとなり、楽しいひとときであった。「おくのほそ道」本文には高久の名は直接現れないものの、この町の芭蕉への思いを垣間見る気がした。(パートナー 小松)

センターからお知らせ 新任職員をご紹介します

参事兼副センター長 たかざわ まこと 高沢 信 環境活動推進課長 おれつ としろう 大津 俊郎

編集後記

編集委員会に動きがありました。昨年度で安川敏行委員がパートナーを勇退、渋谷一貴委員が退任となり、新年度からは有吉潔パートナー、上野夏実職員が新委員になりました。よろしく願い致します。そして今季号の受付コーナーのくま君は…ピカピカの園児姿に(本号のタイトル脇)。多くの皆様からの多彩な寄稿をお待ち申し上げます。

原稿は2階パートナールーム内に設置の手作りボックスまでお願い致します。

(パートナー 新聞)